

平成 19年度第 6回武石地域協議会会議録

日時 平成 19年 10月 30日（木）午後 1時 30分から午後 4時 10分

場所 武石地域自治センター 2階会議室

出席委員	新井繁雄委員、井出守雄委員、伊藤静子委員、伊藤隆子委員、内田安博委員、柿蔭祐子委員、北沢直美委員、清住章雄委員、清住隆幸委員、小山洋江委員、桜井敏昭委員、桜井美枝委員、橋詰真由美委員、松代典之委員、依田せつ子委員
欠席委員	北沢武委員、小池文男委員、高田忍委員、滝沢潔委員、松井幸夫委員
市側出席者	宮下武石地域自治センター長、広川地域振興課長、清水都市計画課長、小相澤都市計画係長、児玉主任、山口市民生活課長、近藤利男産業観光課長、桜井直道建設課長、伊藤健康福祉課長、児玉教育事務所長、児玉地域政策係長、掛川主事
傍聴者	なし

1 開会

（広川課長）

ただ今から平成 19年度第 6回武石地域協議会を開催させていただきます。

2 会長あいさつ（桜井会長）

皆さん、ご苦労様です。

本日、資料として配布してありますが、新しい上田市としての地域協議会のあり方といいですか、地域の活性化に対する補助金や基金の運用等に関する具体的な方針が 10月 24日に信濃毎日新聞、信州民報、東信ジャーナルに出ました。合併協議に関わった方がこの中にもいるわけですが、その中でメインとなったのが分権型というかたちです。地域で考えたことが地域に生きるようにということが新しい行政のあり方だと言われておりまして、そういうことを中心とした地域づくりをやろうではないかということが合併協議における分権型の意義だったわけです。ようやく具体的な方向が決まりまして安堵しているわけですが、ただご覧になっていただくとわかるんですが、例えば武石地域だけ考えてみましても、今までは行政のことにについては議会があって、武石地域のことだけを考えて法律や地方自治法に基づいて権限を持ってやってこられたわけですが、この地域だけのことを考えると行政のことを真剣に考えていただくのはこの協議会の委員の皆さんだけだと思います。それぞれの分野で活動はしていますが、ある程度権限を持って考えを行政に反映できる会は、地域協議会だけだろうと思います。そういう意味において、こういうことが具体的にになってきたことによって、私どもの責任は非常に大きくなるだろうと思います。お金を使うことは簡単なことですが、使い方が本当に住民サイドに立って住民のニーズに答えているかどうか。行政というのは、本来偏ったものではないわけですし、平等というのは同じ金を配るということではなくて、地域格差をなくす、所得格差をなくすという意味ですので、そういうことに合致した答えが出るのかどうかということ

がいちばん大きな課題だと思います。そういう意味で、こういうことが具体的にになってきた中で皆さん方に協議いただくことが、本当の正念場だと思います。特に来年から具体的に子育て支援施設というハード事業の計画もありますし、そういうものが具体的になりつつありますので、その辺も当面の大きな課題として実のあるものにしていただきたいと思います。それから、先日もお話しが出ましたが、基金の運用もこれから諮問されるなり、行政の考え方というものが出てくるだろうと思います。当然行政がやるべきこと以外で、この地域として上田の中心街と精神的に平等にいける行政の心とは何か、ハード面に加えソフト面をどうするか、お金で補てんできて補助金などいろいろな方法があると思いますが、できることはなんだろうと、急に答えが出るわけではありませんが、考えていただいて住民の皆さん方の考え方がこの会に反映していくということをお願いしたいと思います。また本日、市としてここに議題のあります都市計画マスタープラン地域別構想について本庁都市計画課から担当者が来ていますので、ご協議をお願いしたいとも思います。

3 センター長あいさつ（宮下センター長）

皆さん、ご苦労様です。

9月から10月にかけては、大変イベントが多い月であり、皆様にはそれぞれのお立場でご活躍をいただきました。特に武石体育祭、ともしびの里駅伝大会があり、こうした中で地域の一体感、連帯感というものも働いているのかなと思います。来年度以降もご協力いただければと思います。

今、会長からお話がありました児童館の関係等につきましては、先月協議会でもご報告申し上げましたが、実施計画の市長査定が終わり、計画に搭載されたということでございます。従いまして、建設に向けて大きく前進し、来年度につきましてはJA選果場の取り壊しを具体化できるということです。それから、地域予算について、先日それぞれの新聞に市長の記者会見があった内容が掲載されました。これにつきましても大変大きな課題として位置づけていたわけですが、平成20年度予算は新市となって3度目の予算ということになります。18年度予算は4市町村の持ち寄った予算でしたし、19年度の予算は1年目ということで難しいものだけ検討されたという予算でしたので、20年度は実質的に新市として具体的に一步が踏み出せる予算になるのではないかなと思います。その中に地域予算という考え方が非常に大きく出されたということであり、これは地域協議会の中でも課題になってきたことがより具体化してくるということですし、同時にかけられておりました地域振興基金（武石の場合は基本財産基金）の使い方等についてより具体的に方針が出てきているということになります。逆に言いますと、地域協議会の方でどう処理するのかということを確認していただくことが大変重要になってくるということです。20年度の予算ということで大変忙しいわけでございます。いろいろと課題も多いわけですが、ご協議いただきたいと思います。

4 会議事項

- ・上田市都市計画マスタープラン（地域別構想）について（都市計画課）
（桜井会長）

それでは会議事項に入ります。最初に都市計画マスタープランということで前回お願いした

意見記入シートによりご意見をいただいたものを都市計画課の方でまとめていただきました。
これについて、担当から説明をお願いします。

(清水課長)(小相澤係長)

意見記入シート 7名の委員からいただき、資料にまとめた。今回は出た意見をまとめた資料に基づき協議をお願いしたい。

(児玉主任)

—「『地域別構想の主要項目』に関する意見記入シートの整理」に基づき説明—

《説明内容》

『地域別構想の主要項目』に関する意見記入シートの整理

<都市基盤の形成>

・土地利用の誘導について

秩序ある土地利用 住宅地の集約化など、農地等のゾーン分けを明確にした秩序ある土地利用を図る

都市計画区域 都市計画区域については、市民に対する税負担、まちづくり上の必要性に関する十分な周知を図る

農地の保全 遊休・荒廃農地の活用促進等により、農地の保全を図る。

・道路・交通の整備について

道路・交通のあり方 時間距離の短縮とともに、災害時等の代替路線の確保についても考慮して、円滑に移動できる道路交通網の形成を図る

通学路 通学路や公共施設等のアクセスとなる主要場道路について、歩行者の安全性・快適性向上のため、歩道の確保や拡充など整備改善を図る

公共交通 住民ニーズや運営効率等を勘案し、デマンド交通等の公共交通について見直しをする

道路の整備方法 住宅地等では、街区整備と合わせて道路整備を行うなど工夫する

<地域資源の保全・活用>

・自然環境の保全・活用について

自然環境の保全 自然環境の保全に向けて、積極的な取り組みの展開を図る

遊歩道、サイクリングロード等 観光や健康づくりのために、自然環境資源を活かした遊歩道やサイクリングロード等の整備を図る

・景観の形成方針について

自然と調和した施設づくり 豊かな自然環境と調和した建築物となるよう、景観形成のルール化（緑化等）を図る

地域資源の保全 歴史・文化的な地域資源の保全を図る

建物や屋外広告物等への規制 周辺の良い景観を損なう建物や屋外広告物等に対して、計上や色彩等を制限するルールを設ける

地域住民による取り組み 地域住民が主体となった景観形勢への取り組みを行う

<生活環境の形成>

・防災に関する整備について

各種災害への対応力強化 多様な災害に備えて、事前対策の充実を図る

備蓄倉庫 災害時における緊急物資や資機材を確保するため、地域の備蓄体制の充実を図る

・住環境の保全・誘導について

定住人口の確保 定住人口の確保に向けて、住宅対策の促進を図るとともに、教育機関・企業等の誘致や生活支援機能の向上を図る

空き家への対策 空き家について、対応方策

・公共公益施設の整備について

スポーツ施設 市民の交流や健康づくり、観光促進に向けたスキー場等スポーツ施設の充実を図る

子育て支援施設 個性ある子育て支援施設の整備を図る

(桜井会長)

ただいま資料説明をしていただきましたが、ここに載っていることはすべて非常に大事だと思います。私たちが考えることは、これをぜひマスタープランに載せなければいけないということよりも、ここに出ている課題についてそれぞれの皆さん方がどう考えるか、どういう問題点があるのかだと思います。

それでは、項目ごとに順番に意見をお聞きしたいと思います。最初に「土地利用の誘導について」ご意見をお願いします。

(委員)

質問なんです、都市計画マスタープランというのは都市計画区域に指定するしないに関わらず策定して、指定しなくても各課の方で取り上げてやっていただけるということなんですか。

また、今の土地利用ということになると都市計画区域に指定して、ある程度用途地域に指定していかないとうまくいかないと思うんですが。

(清水課長)

マスタープランについてはそういうことです。

土地利用について、上田も丸子もまだ中心の市街地だけが用途地域の指定ですので、用途地域というところまではいきません。用途地域の指定にも基準がありまして、武石はその基準に該当しません。

(委員)

以前に平成 20年度までの実施計画の資料をいただいてあったり、合併協定書の中にもいろいろなまちづくりや地域づくりというものが出ていたりしますが、市としてはこういった計画を基本として、今まで一本化されたり計画されたものはそれなりに やって行って、その他にマスタープランがあり、我々のこういう意見を聞いて取り入れていこうということによろしいん

ですね。

（清水課長）

今回の議会で取り上げられました総合計画が、市としてはいちばんの上位計画になっており、それを受けた形でその下にマスタープランがあります。

（委員）

都市計画区域につきまして、委員の方からの意見で「武石地域は都市計画区域の指定は必要ないように思います」とどちらかという否定的な意見が出たのに対し、まとめは「都市計画区域については、市民に対する税負担、まちづくり上の必要性に関する十分な周知を図る」という肯定している意味の文章になっています。我々は都市計画というものに対してなじみもありませんので、協議会自体でももう少し勉強する必要があるのではないかと感じます。会長にもお願いして勉強会などを開いてやっていただければいいかなと思います。

（清水課長）

上田の中で、用途地域に住んでいる人でも自分の家が何地域なのかわからないから説明してほしいという方もいます。都市計画制度は、住んでいてもなかなか難しいものです。武石地域につきましても下水道は入っていましたが、都市計画は今までありませんでした。前回の協議会で説明はさせていただきましたが、1回聞いた程度ではなかなかかわからないと思います。できれば、次回以降に時間作っていただいて、都市計画区域についてもわかりやすい資料で説明をしたいと思います。

都市計画区域については、また勉強会などをやりながら委員の皆さんの意見をお聞きしたいと思っています。これについては、この協議会だけでいいか悪いかを決めて、それを上田市の方針とするのはなかなか難しいことですので、まずは協議会の委員としてのご意見を出していただきたいと思います。他の協議会からもたくさん出てきていますので、全体を市の方で判断してどうやっていくかはまた次の段階でやります。先ほど言われた表記についても、今のような意見があれば検討したいと思います。

（桜井会長）

先ほど協議会が始まる前に都市計画課の方と打合せをしたんですが、今委員さんがおっしゃられた都市計画区域、都市計画税とはどういうものかということについては一度聞けばわかると思いますが、今なぜ武石地域にそういうものを指定しなければいけないのか、具体化しなければいけないのかということに対して、どう説得するかということだと思います。なぜ今、そういう話が出るのか、それが住民の理解を得られるかということだと思います。その点を重点的にお願いしたいと思います。このことについては、また勉強会をするということをお願いしたいと思います。

その他に何かありますか。

（委員）

今の問題なんですが、住民の皆さんはまだこういうことを知らないんですよ。協議会の委員だけで住民の皆さんに説明するのはなかなか難しいので、自治会長会などでこういう問題があるという問題提起はしていただいて、皆さんの意見を聞いていただくということも大事だと思いますのでお願いしたいと思います。

（委員）

武石では、今まで計画というものがなく個人の思うがままに、自分の土地があればどこへでも家を建てられたわけです。都市計画を立てるということで、武石地域もそういったことをある程度規制していこうという話になってくると、個人が自由にやっていたことができなくなるという問題が出てきます。その辺を住民の皆さんに理解してもらえるかどうかということがあると思うんですが、ここにも掲げてあるように、例えば宅地等について集約していこうとか、景観についても景観の悪いものはやってはいけないとか何階以上の建物はつくってはいいないとか、そういうことをこの場所で決められると、ひとつの法というものを作っておかなければいけなくなってきました。それが都市計画に基づいた武石の計画の型になると思います。それは住民の皆さんに理解されないといえないわけですよ。これは非常に難しい問題だと思いますので、時間をかけて考えていかなければいけないと思います。一般的に住民の皆さんは今までどおりがいいと言うはずですよ。消防の車が入っていかれようがいかなきゃしょうが、家は建てられるわけですから。これからはそれでいいのかわかりませんが考えなければいけないし、それが大事になっていくかだと思います。

（桜井会長）

他にありますか。

続いて、「道路・交通の整備について」ご意見ををお願いします。

（委員）

私は何年も前から言っているんですが、武石地域から丸子方面に向かうには、武石沖の信号から小屋坂入口の信号までの間の1本しかありません。地域の皆さんはあまり危機感を持っていないんですが、この152号線はだいぶ交通量が増えてきていまして、あそこで事故や災害が起きた場合には152号線は完全に麻痺してしまうわけです。特に武石地域の人は上田や丸子、国道18号線へは出どころがなくなってしまいます。長和町の滝ノ沢を上っていく道路はありますがほとんどの方は知りませんし、所沢に道路を開けたんですが、武石側だけ舗装してありますが今通行止めになっています。そういうような道路しかなくて、一旦そういうことになったら1時間停まっただけでも何千人という人たちがおそらく被害を被るのではないかと、私は非常に心配しています。この辺をぜひ皆さんの方でも重点的にお考えをいただければありがたいと思います。よろしくご検討いただければと思います。

（桜井会長）

実際の道路は丸子分になります、下沖から丸子の和子へ抜ける道があればよいですね。

（委員）

ただ今の件ですが、その場所でちょっと事故があると渋滞してしまいます。そうすると、沖の信号から依田窪プールの方へ抜ける道があるんですが、そこを皆さん通るんですよ。あの道はとても狭いので非常に危険を感じています。

（清水課長）

マスタープランにも費用がありますので建設課の方とも調整して、可能であれば表記できればよいですが、表記できなくてもこのような表現で載せたいと思います。

（委員）

先ほど委員さんが言われた所沢道路の件ですが、あの道は現在通行止めになっていますしガケ崩れが多いんですよ。せっかく開けた道ですので、もう少し整備してきちんと通行できる

ようにしていただきたいと思います。

（委員）

ただ今、委員さんが言われたことは検討課題だと思います。私の記憶の範囲では、鳥屋の山が崩れて半日以上通行止めになったことがあります。今も大雨が降れば、そうなる可能性はあると思います。危険度を調査することによって優先順位も変わってくるのではないかと思います。皆さんが心配されるのは最もだと思います。

（桜井会長）

道路については、自治センターの課長さん方でもまたご協議いただきたいと思います。

他に、道路の関係についてご意見ありますか。

（委員）

私は電気屋をやっているんですが、中部電力の丸子営業所がなくなって書類を出すたび上田まで通っていますが、非常に遠いと感じます。30分構想なんて打ち出してやっていたんですが、なかなか進んでいません。最近、丸子の東郷橋の迂回路ができましたけど、そういうところを見ても計画的にやっているのかなと感じるわけです。所々そういうことはやっていますが、それがどこにつながっているのかと考えたときにどこにもつながっていないように思うわけです。ですので、何かつくるのだったら将来的にここに活きるということでやってもらわないと、所々だけではなかなか時間の短縮にはつながらないと思います。そういう部分で都市計画というよりも住民の利便性という面でそういったことを検討していただきたいと思います。

（清水課長）

その場所は合併前から事業を進めていて、東郷橋の信号がいちばん混むので大石橋からの信号のところまで進めたいという予定です。なかなか込み入った場所ですので、用地買収が難しいという話も聞いております。

（委員）

交通機関のことで、デマンドバスについてぜひプランの中に組み込んで将来に向けて幅広く運用していただきたいと思っています。11月15日だったかと思いますが、安曇野市でデマンド交通の全国区の大会があります。安曇野市は堀金村、明科町、豊科町が合併したんですが、もともと堀金村で運行していたデマンド交通を全市に広げようということで、路線を決めてやっていて、非常に先進的な形で運行しているというわけです。武石のデマンドバスは、1年間商工会で委託されて運行してきて、元々武石でやっていた村営バスの頃には1日平均2人くらい、誰も乗らない日も1週間に一度くらいあったという状況でしたが、今だいたい1日平均して28~30人近くになったわけです。交通弱者にとっては非常によいバスだと思っているわけですが、これをできれば全市にうまく広げていただけるような方法を何らかの形でとっていただけないかと思うわけです。活躍されている路線バスがあるということが、大きな課題にはなってくると思います。タクシー会社との関係もあるかと思います。安曇野市で運行して、かなりの利用率があると聞いていますので、きつとうまくやっているだろうと思うわけですが、そんなことを参考にしながら、例えば今のところ大屋までしか行かれないわけですが、上田や別所、塩田や真田方面へ乗り継いででも行かれるような状況になってくると非常に便利な機関になりますし、利用率も上がってくるだろうと思いますので、今市の方でも検討を進めていた

だいているようですが、武石からそういったことを発信して進めていただくようお願いしていききたいと思いますので、よろしくお願いします。

（清水課長）

公共交通については、今、公共交通活性化プランでどのようにやっていくかを検討しているところです。そちらの方とも整合性をとりながら、デマンドバスのことも当然公共交通のひとつとして有効な方法だという位置付けになっていますので、よりよい方法をマスタープランにも記載していきたいと思っています。

（桜井会長）

交通関係の会社の考え方もそうですが、路線を確保するということではなくて、そこに住んでいる住民のニーズは何なのかを考えて、それに合わせて路線を考えるべきだと思います。

（委員）

通学路の課題について資料にも書いてあるんですが、主要道路には幅の広い歩道があるんですが、旧村道には歩道がほとんどなく白線程度しかありません。沖、鳥屋の皆さんから七ヶ近辺の歩道について非常に苦情が出るわけですが、地元の歩道はほとんどできてない状況です。逆にそちらの方を早急に整備するという考え方の中でやっていただかないと、子どもたちが歩いてくるのに白線のところぎりぎりの状況です。特に小学校近辺についてはだいぶ歩道等もできています。日中はお年寄りの方が畑などへ行くため遠距離をけっこう歩いていますので、歩道については早急にお願ひできるようなかたちで、マスタープランの中に入れておいていただければありがたいと思います。

（広川課長）

歩道については、十数年前から話がありましたが、現実的に歩道をつくるということになると家屋の移転を伴うことになります。ひとつの案としては、通学時間帯だけ一方通行にしてみようとか、七ヶについては縁石がある歩道も歩道用の除雪機が入れないほど狭く、子どもが一人歩くのがやっとなような状態ですので、縁石を取ってしまっただけ白線を引いて端まで除雪をできるようにするなど考えていく必要があるかと思います。

（清水課長）

個別の課題はいろいろあるかと思いますが、マスタープランには客観的な形でさせていただきたいと思います。

（委員）

子どもの通学路も重要ですが、お年寄りが一輪車にのせてごみ捨てに行ったりもしますので、そういう面でも整備をお願いしたいと思います。

（桜井会長）

いろいろご意見ありましたが、マスタープランの中で歩道に重点を置いてやっていくということで、具体的な場所ではなくて全体のことを載せていくということをお願いしたいと思います。

それでは次に「自然環境の保全・活用について」と「景観の形成方針について」ご意見をお願いします。

（清水課長）

これについては具体的な場所がありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

(委員)

ぜひやっていただきたいという場所なんです、武石公園の裏に遊歩道をつくってもらって、健康のために歩いてもらいたいと思います。

(委員)

遊歩道のことですが、国でやった事業だと思いますが巢栗溪谷に木を使って橋や手すりを作っていますが、後の管理がほとんどされていません。時間がたてば、穴が開いてくるという状態です。遊歩道をやる場合にその辺を考えてやらないと、そのときの見た目だけでつくってしまうと後々非常に大変だと思います。湿気のあるところに木製の橋や遊歩道をつくってもダメなんですよ。毎年防腐剤を塗ったりすればいいですが、そんなことは不可能ですよ。やはりやるからにはある程度持つようにやらなければいけないと思います。ほっとステイの子どもたちを連れてお仙が淵に行きますが、橋に穴が開いていたりします。木製では何年か経つと必ず腐ってしまいます。特に手すりに木を使うと寄りかかると落ちてしまったりします。そういう事故が起きると管理者の責任にもなるかと思うので、一時的な環境だけにとらわれなくて、やるからには鉄製などでしっかりやらないとうまくいかないと思いますので、お願いしたいと思います。

(桜井会長)

本当に危険であれば、担当課の方で検討していただきたいと思います。他にありますか。

(委員)

武石公園裏に遊歩道を設置してほしいというお話が出たんですが、何年か前に武石の桜と呼ばれる会の皆さんが公園裏にたくさんの桜の木を植えたんですが、現在は草だらけで桜の木がどこにあるのかわからない状態ですので、そういうところの整備もお願いしたいと思います。

(近藤課長)

ただ今言われた場所ですが、本来は有志の武石の桜と呼ばれる会の皆さんにボランティアなりでやっていただかなければいけないんですが、会が解散してもらったので、今年度は市で草刈をやらせていただきました。

(委員)

武石のいちばんのシンボルである美ヶ原という言葉をぜひ盛り込んでいただきたいと思います。

(桜井会長)

他にありますか。よろしいでしょうか。

それでは、次に「防災に関する整備について」「住環境の保全・誘導について」「公共公益施設の整備について」「その他」について、ご意見をお願いします。

(委員)

公共施設として番所ヶ原スキー場についてお願いしたいんですが、先ほど課長も言われたように武石の特色を出すという意味では、番所ヶ原スキー場は大変大きな意味を持つと思います。特に練馬区との関係もありますし、上田市のスキー場でもあるわけです。これから整備することによって、このスキー場の価値観はものすごく上がるのではないかと思います。私を含め委員さんの中にはスキーを楽しんでいる方がいます。これを整備することで市民の皆さんのスポーツ利用も増えてくるだろうし、市営のスキー場ということで身近に感じてもらえるか

と思います。現在、管理しているのは武石開発公社ですが、あと 4 年ほどで指定管理者制度の期限も切れて新しくなってきます。また、開発公社自身もこれから合併されるという話も聞いています。そうなりますと、指定管理者に渡すとしてもやはり価値観のあるものをつくっておけば、それなりの期待もできるのではないかと思います。これにつきましては、武石村の長期計画にも入っていましたし、合併協定書の中にも一部取り上げられていたかと思いますので、できるだけ早めにやっていただきたいと思います。美ヶ原と武石というのは、距離が遠すぎるイメージがありますので、その中間にこういう施設があってそこに人が集まるということが逆に地域の活性化にもつながると思います。美ヶ原に来たお客さんが武石に留まるということはなかなかなくて、逆に武石に来た人たちが武石の人たちが美ヶ原をご案内するという方が多いわけですが、スキー場というのはまた逆にスキーに来た人たちが武石に下りてきて武石の中で過ごしていただくということが出てくるというように感じますので、できるだけ早めに施設の充実について検討していただきたいと思います。

（清水課長）

内容はよいと思いますが、具体的にはどんなことですか。

（委員）

リフトの架け替えになります。いろいろなところを見ましても、1,000mを1面のゲレンデでできるという場所は他にはありません。ですので、非常に利用価値はあると思います。

（委員）

防災についてですが、武石はよいところで今までに大きな災害がありません。それだけに備えがなく、住民意識が低いと思います。今、地球環境が変わってきて、いつどうなるかわからないような状態になってきている中で、のんびりしていてよいのかなと思っています。やはりこの機会に住民意識の向上を図り、危機感を持って自分がそういうことに対応できるような地域づくりも進めてもらいたいと思います。ですので、そういう文言も入れてもらえればありがたいと思います。これから自治会長さんの会議もあると思うんですが、そういう場所でも話していいと思います。

（清水課長）

防災の関係につきましては他の地域でも出ておりまして、おっしゃるとおりだと思います。

（委員）

子育て支援施設についてですが、武石の独自性ということで中高生の居場所をつくってほしいという要望を出したんですが、どれだけ利用されるかわからないということと、上田市内の他の施設にはにはそういう部屋がないということで外されてしまいそうなんですが、個性ある子育て支援施設というものをいったいどのようにとらえていただけるのかという部分で、大きな問題があると思いますので、よろしくお願いします。

（桜井会長）

施設などをつくる場合に、全体の均衡ということだけにとらわれなくて、個性がどうかという問題もありますし、関係する皆さんの声を聞くという姿勢は常に持っていただくようお願いしたいと思います。

他にありますか。

（委員）

ともしび公園が整備が行き届いていないと感じます。草ものびていますし、先日子どもを連れて行きましたが、遊具も心配な箇所がありました。先ほどからお話に出ているスキー場や遊歩道、道路もそうなのですが、せっかくよいものをつくってあるのに整備保全されていないために有効に使えないという場所がいくつかあると思います。これから新しいものをつくるというのは予算の関係もあって難しいと思いますので、既存の施設の整備について考えていただきたいと思います。

（桜井会長）

センター長を中心に、各担当の課長さんや係がいると思います。今言われたことは非常に大事なことで、ぜひ具体的に整備等をお願いしたいと思います。

他にありますか。

（委員）

商業施設についてですが、沖にピコというショッピングセンターがありますが、イオンが撤退するというような話を聞いたりしますが、せっかくつくったものがなくならないようにしてほしいと思います。あの中には武石地域の店舗もいくつかありますし、あのような商業施設もなくならないように維持していけたらよいと思います。

（清水課長）

マスタープランの中で位置付けをすることはできます。ただ市営の施設ではありませんので、維持していくということではできません。

（委員）

今の委員さんの問題についてですが、そういう問題が取り沙汰されているときに住民が署名運動を起こすという法もあります。この地域全体の中で「この施設は必要だ」ということをイオンの本社へ宛てていけば、イオン自体がこの地域の人たちから逃げられてしまうという圧力を与えるような形を取る方法しかないかと思います。行政が「いてほしい」というわけにはいかないし、イオンも利害関係があってもうからなければ出ていくわけです。それを食い止めようとするなら、住民が行動を起こすこともひとつの手ではないかなと思います。

（桜井会長）

上田市になっても、地域が寂れていくというのは非常に寂しいわけです。撤退の話が具体的に出来れば、委員さんが言われたような方法も必要ではないかと思います。やはり住民の皆さんが地域のものを残していこうという気持ちが大事だと思います。

他にありますか。よろしいでしょうか。また何かありましたら、次の機会にお出しいただきたいと思います。

それでは、都市計画マスタープランについては、以上で終わります。

・地域予算について

（桜井会長）

続いて、地域予算について事務局から説明をお願いします。

（広川課長）

冒頭に、会長とセンター長の方からお話がありましたが、地域予算や基金の関係につきまして皆さんにお示しする段階になりました。平成 20年度の予算に向けてもある程度の方向性が

出ましたので、今回お話しします。細かい活用方針につきましては、まだ詰めている段階です。出来次第皆さんにお示ししたいと思います。皆さんの方でも地域振興基金を使った事業で考えているようなことがありましたら、お願いしたいと思います。それでは詳細については担当からご説明いたします。

（児玉係長）

— 地域予算について資料に基づき説明 —

<説明内容>

地域予算・・・地域で行う事業の内容や優先順位や金額を、地域の皆さんが中心になって決めることができる予算。財源は上田市地域振興事業基金と一般財源。

住民要望を基にした事業内容。

基金を活用した事業と一般財源を用いた生活関連予算。

地域要望の把握については、地域自治センターでそれぞれまとめ、地域協議会にお示しし、委員さんから意見を聞く。

具体的内容

直接要求予算（武石地域の基金を財源とする）

- ・ 合併による各地域制度の統廃合により、地域に対する負担の増加等が見込まれる事業に対し、激変緩和措置が必要と見込まれるもの
- ・ 地域独自のイベント事業
- ・ 地域資源を活用した事業
- ・ 地域課題に対応する事業

（仮称）わがまち元気いっぱい事業補助金（新市造成基金の運用利息を財源とする）

- ・ 元気なまちづくり事業（市民 5人以上でまちづくりをする市民団体による）
 - 事業の審査を地域協議会が行う。
- ・ 元気なふるさとづくり事業（自治会・地区連合会による）

生活関連予算

- ・ 土木単独事業
- ・ 土地改良単独事業

活用方針については、現在検討中。

（桜井会長）

今、ご説明がありましたが、何か質問がありましたらお願いします。

（委員）

持ち寄った基金で武石地域の 3.8億円はすべて武石地域で使えるんですか。

（児玉係長）

そういうことです。

（桜井会長）

わがまち元気いっぱい事業補助金の補助率はどうなっているんですか。それと、土木や土地改良事業の予算は基金ではないんですね。

（児玉係長）

補助率は 100%で、限度は 50万とか 100万円程度になると思います。また、土木、土地改良事業の予算は一般財源になります。

（委員）

わがまち元気いっぱい事業補助金についてですが、随時受けつけると言われましたが、やはり期間をある程度区切っていただいた方がよいのではないのでしょうか。

（児玉係長）

原則、応募は春ですが、この事業のいちばんの考え方は地域の皆さんの使いやすい補助事業にしようという観点であることから、募集時期を限定せずいつでも計画があったところに対応できるようにしていこうというものです。実際に運用していく段階で、不都合があれば修正していく形になるかと思っています。

（委員）

4,500万円の予算ということは、単純に人口割でいくと武石の分は 100万円しかありません。市のほうではどういう振り分けをしてくるんですか。

（児玉係長）

現在、上田で運用しています元気な地域づくり事業補助金は、武石で今年 3つ申請しすべて採択になっています。上田市全体でも 7件ですので、そう考えますと人口割というよりも申請があってそれが妥当なものであり意欲が認められれば、100万円よりも多くなるかと思っています。

（委員）

市がどう振り分けるか、基本的な考えはまだわかりませんが、私も踊りの関係で今年補助を受けましたが、今年の制度は上田と武石だけでした。丸子と真田は、それぞれ違う制度でやっていたんですが、今度は 4地域でやるということですから。

（委員）

全体の総数の制限はないんですか。

（児玉係長）

果実運用ですので、果実がおよそ 4,000~ 4,500万円と枠は決まっています。ですから自ずと件数は限られてくると思います。

（委員）

今までの制度だと 6割補助で自分たちで 4割は財源を用意しなければいけませんし、全額立て替えて払わなければいけませんでした。今度は全額補助してもらえるということですので、その面では非常にやりやすくなると思います。

（桜井会長）

例えば申請件数が多かった場合に、すべての団体に支払えるように補助率を下げたりすることもあり得るんですか。

（児玉係長）

今のところ、それはないと思います。

（桜井会長）

これについてはよろしいですか。それでは地域予算については以上で終わりにします。

5 その他

（桜井会長）

その他で私の方から一点お願いしたいんですが、「お産といのちを守る会」という会から、協議会の会長宛に資料が届きました。実際に個人的に署名活動をされている方などもあるようですが、協議会で取り上げるということではなく、それぞれの皆さんのお立場でご協力いただければと思います。

私の方からは以上ですが、その他に何かありますか。

（委員）

協議会の委員になり1年以上経過しましたが、合併に対する不満が出てきていると感じます。都市計画の問題もそうですし、予算編成の時期を前にして我々がもう少し勉強をして理解しなければいけない問題がたくさんあると思います。ですので、正式な協議会という形でなく、もう少しフリーストークができるような場も必要ではないかと思うんですが、どうでしょうか。

（桜井会長）

私は非常に活発な意見が出ていると思いますが、会としてどう考えていけばよいと思いますか。

（委員）

皆さん、それぞれ意見を持っていると思いますので、例えば勉強会なりを開いたらどうかと思います。

（委員）

テーマを決めておいて、「私は武石地域をこうしたい」というような将来を見据えた考え方を、周囲の方の意見なども気楽に話せる場があればよいと思います。その時々の題目はなんでもよいと思いますが、例えば自分の家庭はどうだという身近な話から始めて、将来的な話ができればそれでよいと思います。

（委員）

これから、いろいろな課題が出てくると思うんですが、今子育て支援施設の問題も目の前にあって、その話を例えば全体でやっているのもよいですが、専門的なことで詳しくやっている会の方もいますので、本当に内容のよくわかっている人たちが話してもらうことはとてもよいことだと思います。ですので、協議会とは別に分科会を設けて、専門的に検討してもらって、最終的にこの協議会で意見をまとめた方がいいような気がしますが、どうでしょうか。

（桜井会長）

皆さんのご意見の中で、それぞれの専門的なことは小委員会のようなものの中で具体的に検討してもらって、それを全体会で提議してもらってそれを中心に協議するというご意見が出ましたが、どうでしょう。

（委員）

そういうことでよいと思います。

（児玉係長）

武石以外の協議会の様子を見てみますと、前半は分科会をやってそれを発表し、後半の全体会で討論して方向性を決めていくという形を取っているところもありますし、独自で勉強会として研修を行っているところもあります。

（桜井会長）

具体的にどういうもので、どういうふうに分けるかという問題があるので、今ここで分けるというわけにはいかないと思いますが、どう決めるかということも含めて、自治センターと正副会長で検討させてください。次回までに方向をお示しするという形でよろしいですか。そういうことでお願いします。

他にありますか。

（委員）

なかなか意見を言う機会がなかったんですが、保育園の給食についてお願いします。合併してから 2回食べる機会があったんですが、まずかったんですね。去年も意見を言って、改善されるかもしれないと言われたんですが、今年もやはりまずくて、でも先生たちは食べさせるのが上手で「おいしいね」と言って子どもたちはまずくても食べていました。でも、それでいいのかなと私は思うんです。以前は、非常に薄味でもだしがよく効いていたのでおいしかったです。今給食の献立を見ると、ときには煮干やかつお節と書いてある日もあるんですが、ほとんどが「うまかだし」というので味付けがされていると思うんですが、うまかだしはおそらく化学調味料かと思うんです。また去年の 4月までは、1回の食事が 4品だったのが 3品になってしまっていて、りんごとかみかんを入れて 3品なんです。ちょっとボリュームが少ないと感じる方が私以外にもいるようです。それと、小学校の給食の栄養量では、正確な数字がはっきりわからないんですが 1日の栄養量の 40%程度を学校給食で取るようにメニューを考えているということなんですが、保育園はそれが 30%だったか小学校よりも低いんですね。実際、今の子どもは朝食べないで来てしまう家庭もあったりして、保育園の給食でしっかり取らないと栄養量が足りないのではないかという印象があります。合併してよかったことは、いろいろな先生たちが武石にも来てくれたことで体力づくりなども頑張ってくれているんですが、自分の子どもを見ていてもそうですが、今の子どもたちは基礎体力が全然ありません。

（宮下センター長）

体力の問題については一連の中で急に変わったというふうには思えないところがありますので、その辺ははっきりしませんが、いずれにしても今は市の方で栄養士が献立を立てていますので、ただ今の件につきましては保育課のほうへ話をつなげたいと思います。

（桜井会長）

具体的な意見はこういう機会がなければなかなか出せないと思いますが、センター長や課長の皆さん方も試食をしていただいて、実際に改善した方がよいことは改善する方向へ持っていっていただきたいと思います。試食をした結果をまたご報告いただければと思います。

（委員）

朝、食べていく子とそうでない子では、保育園に限らず学校へ行っている子どもたちもそうですが、脳の活性化が全然違うんですね。朝ごはんを食べていない子は、授業を受けても頭には入っていきません。その生活習慣をつけるには、保育園の頃からやっていかなければいけない。朝ごはんを家庭で食べさせるのは当たり前のことです。

（委員）

親が朝起きられなくて、子どもに食べさせない家庭もあります。親を教育する場も必要ではないかと思います。

（委員）

以前は保育園の参観日のときにクラスの保護者が話し合う場があったんですが、今はなくなってしまって、個人的にいろいろなことを話してる方はいると思いますが、クラスで話し合える場がなくなってしまいました。小学校ではあるんですが、全市的に保育園ではそういう場がないそうです。ですが、保育園の先生は親に対して基本的にはこういうふうにやってくれとは言わないんですね。できないお母さんに対してそういうことを言うと否定されているというふうに取り立てしまうので、そういう教育の仕方はしないようにしているということ です。ですので、親同士が話し合う場は武石だけではなくて、どこの保育園でもあった方がよいと思います。

（桜井会長）

自治センターの方で、現実的にどうなっているのか調べていただきたいと思います。

（委員）

保育園の関係ですが、8月に保育園で夕涼み会がありました。私は孫を連れて行きましたが、どの子もすごく輝いた目をしていて、先生方も一生懸命やっていました。ですのでひとつの面だけではなく、いろんな面で輝いているんだと私は感じました。

（桜井会長）

こういった具体的な思いが出てくるというのはとても大事なことで、それ に対して行政側がどう対応するかも非常に大事なことです。給食については味覚の問題ですので、センター長が食べたらいしかったということであれば、それはそれでいいと思っています。そういうことを具体的に行って伝えていただくことが大事だと思います。

時間も経過しましたので、以上で終わりにしたいと思います。

（小山副会長）

皆さんに貴重なご意見を出していただき、ありがとうございました。以上で第 6回武石地域協議会を閉会といたします。ご苦労様でした。